

ドイツ、アーヘン工科大学での滞在を終えて
理学系研究科物理学専攻 博士課程 1年 鈴木貴文

2015年1月2日から3月30日までの3ヶ月間、アーヘン工科大学に滞在し、V. Meden教授、及びD. M. Kennes氏と共同研究を行った。

アーヘンは、オランダ、ベルギーとの国境地帯に位置するドイツ最西端の都市である。歴史上重要な出来事として、8世紀末のフランク王国国王のカール大帝によるアーヘン大聖堂の建築が挙げられる。現在は、市内いたるところに同大学の関連施設が点在しており、国際色豊かな大学都市としての性格を有する。

Volker氏、Dante氏の両名はこれまで、汎関数くりこみ群による非平衡輸送現象の研究に精力的に取り組んできた。自身の研究課題は、同手法による非平衡量子ドット系の電流ゆらぎの解析である。滞在中は、互いの専門性を活かした有意義な議論の機会に恵まれ、プロジェクトの立ち上げ段階が完了した。帰国後も緊密な情報交換を行い、継続的に研究課題に取り組む予定である。

最後に、居心地の良い研究環境を構築して下さった研究室の方々と、海外派遣を支援して下さった指導教員の加藤先生、及びALPS事務局の皆様に深く感謝いたします。